

令和6年度8020公募研究事業
研究報告書抄録（採択番号 24-1-02）

研究課題：五島市住民の歯周疾患と全身との関連についての縦断研究

研究者名：川下由美子

所 属：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔保健学

〔背景〕五島市では住民基本健診に加えて2014年からコホート調査が実施されている。ベースライン調査では2014年に福江、2015年に玉之浦と奈留、2016年に三井楽、岐宿、富江と久賀にて実施された。第2次調査として、2017年から2019年までの3年間でベースライン調査時と同じ地区での健診が繰り返された。2020年は新型コロナ感染症予防対策のため動脈硬化健診は中止されたが、2021年に再開され、現在第3次調査が行われている。これまでに横断研究での歯周疾患と全身疾患との関連が報告されてきた。

〔目的〕ベースライン調査と第2次調査までの追跡調査において、歯周疾患の悪化とそれに関連する因子を検討することであった。

〔方法〕ベースライン時から第2次調査まで追跡できかつ無歯顎者を除いた498名を分析対象者とした。アウトカムは歯周疾患の悪化とし、その定義は2mm以上のアタッチメントロスが1歯以上認められた者とした。リスク因子は性別、年齢、現在歯数、歯周ポケットの深さ、現在喫煙の有無、糖尿病の加療の有無と歯科保健行動であった。解析方法はロジスティック回帰分析であり、両側有意水準を5%とした。

〔結果〕ベースラインにおけるPDが3mm未満の者の割合について、男性は35%であったが、女性は65%であった。一方、重度の歯周病であるPDが6mm以上をもつ者の割合については、男性が高く58%であり、女性は42%であった。3年後に歯周疾患の悪化が認められた者は、287名（57%）であった。ロジスティック回帰分析の結果から、男性が女性よりも歯周疾患が悪化しやすくオッズ比1.65（95%信頼区間：1.09, 2.50）であった。歯周疾患のリスク因子である糖尿病や喫煙状況と歯周病の悪化とは関連が認められなかった。

〔考察〕本研究の結果から、ベースライン時から女性よりも男性の方が歯周疾患の有病割合が高く、歯周病のリスク因子である現在喫煙があった者の割合と糖尿病の加療があった者の割合はどちらも女性より男性の方が高かった。その結果、男性と3年後の歯周疾患の悪化との関連が認められたと考えられる。現在、第3次調査が行われており、歯周疾患の悪化についてさらなる解析が必要と考えられる。